

職業意識の育成・向上を目指した取り組み

～デイサービスセンターにおけるお年寄りとの交流を通して～

齊藤 恵子

本校専攻科歯科技工科の生徒は、3年間の講義・実習を経て歯科技工士国家試験に合格すると、多くが歯科技工所に就職をしている。働く際に大切となるのが歯科技工技術・知識は勿論であるが、同時に自分の仕事の意義を肌でわかっていることである。歯科技工所は歯科医院とは違い、義歯などを使用する患者さんの喜びや悩みの声が届きにくいのが現状であろう。在学中に患者さんの気持ちに触れる機会を設けることで、少しでも自分の目の前の石膏模型から患者さんのことを想像できるようになってほしいとの思いから、近隣のデイサービスセンターにてお年寄りとの交流を始めて8年になる。交流の様子や生徒の感想を振り返って交流の意義について検討を行った。

キー・ワード：職業意識 歯科技工 デイサービスセンター お年寄りとの交流 主体的な行動

1 はじめに

歯科技工という仕事は、物作りの仕事であるが、作った物は生身の人間の口の中に調和し、うまく機能しなければならない。その最終目的が見失われていては、どんなに綺麗で格好の良いものを作っても意味をなさない性質のものである。患者さんの日常生活や気持ちを想像しそれに沿ったものを作るようになることが必要不可欠である。そのような根幹に触れるような体験をどこかでさせたいと考え、この取り組みを始めることにした。

2 取り組みの時期

デイサービスセンターへの訪問は、筆者が担当する入れ歯実習の時間を利用し、2年次の6月末頃に行っている。歯科技工科3年課程の内の1年次には、全部床義歯（総入れ歯）の講義・実習、2年次前期には部分床義歯（部分入れ歯）の講義・実習とクラウン・ブリッジ（被せ物）の講義・実習がある。自分がこれから行う歯科技工士の仕事が具体的に理解できる頃であろう。そして、この体験を経た生徒が残りの1年半でどのように成長するかが注目するところとなる。

3 交流の様子

交流は、お年寄りの方たちが昼食・休憩を済ませた午後に訪問し行っている。（表1）

表1 交流当日のタイムスケジュール

14:00	自己紹介・歯科技工物の紹介 体の体操 嚥下体操 ゲーム
15:15	おやつタイム
16:20	帰りの会・帰宅

(1) 自己紹介と歯科技工物の紹介

最初に、各自の名前と出身地、趣味などについて話し、歯科技工物の紹介に入る。生徒は毎年思い思いのテーマで発表をしてきた。準備の時間を設ける余裕がないので、「お年寄りの方にわかりやすくお願いね」と伝えておくと生徒たちは放課後の時間を使い、絵を描くなどして準備をしていた。全部床義歯の歴史を発表した生徒は、ジョージ・ワシントンの入れ歯を紹介し、興味深い内容であった。また、「クララちゃんとポンちゃんのお風呂」などという題をつけて紙芝居風に仕立て、おもしろく、そして易しく口の中の被せ物の様子を発表した生徒もいた。教

師が考えもしない素晴らしい発想が飛び出す事が幾度もあり、その度に生徒の自主性に任せることの大切さを感じてきた。

(2) 体の体操

椅子に座ったまま手足を動かす体操で、足踏みをしたり、手足を左右交互にまたは同時に前方に出したりするのだが、お年寄りのやることだからと甘く考えていると、意外にきついことに気づいたようである。

(3) 嚥下体操

普段は、唾液の分泌を良くするために、食事の前に行っているとのことである。食べ物を飲み込むのに必要な筋肉を鍛える体操で、頬や舌、のどなどの口の周りの筋肉だけでなく首や腹・背中・足の筋肉など全身の筋肉を対象としており、9項目から構成されている。例えば、「パ」「タ」「カ」「ラ」の音の発声練習をすることによって唇や舌を動かすトレーニングになり、スムーズな嚥下につながる。このような情報は、歯科技工士にとってとても重要である。若い自分たちには苦勞なくできていることでも、お年寄りにとっては日々努力しなければならないという事実を知って、口腔の機能に配慮した入れ歯のあるべき姿に意識が向くようになってもらいたい。

(4) ゲーム

この8回の交流を通していろいろなゲームを体験することができた。実によく考えられており感心するばかりである。1例を紹介する。総勢30名程が2チームに分かれ、向かい合って椅子に座る。「スタート」で端の人から順に、タオルを首に巻いて1回縛ってポンと手を叩き、続けてタオルをほどき隣の人に渡すという競争である。これもお年寄りのやることだからと甘く考えていると、生徒の方がもたもたしているのである。感心したり、「がんばれー」と思いやりの感情が芽生えたりするのであろう、徐々にお年寄りと生徒たちの距離が縮まっていく様子が見て取れた。

(5) おやつタイム

おやつをいただきながら、近くに座っているお年寄りに自分の用意した入れ歯に関する質問をするの

が狙いである。生徒にとっては、まずおしゃべりすることが困難のようである。ホワイトボードなどを準備はするが、なかなか切り出せない内に戦争体験の話などが展開されることもある。デイサービスのスタッフの支援もあり何とか入れ歯の話をすることができるという場面も多い。そのような苦勞をしながら、お年寄り一人一人の気持ちを聞くことによって自分がどのようなことに向き合っていかなければならないのかを感じ取ることができたと思う。また、目標を見失いそうになった時にこの経験を思い出し踏ん張ることができるのではないかとも思う。



図1 ホワイトボードを使って入れ歯について質問する生徒

(6) 帰りの会・お見送り

交流の感想を一人一人述べた後、皆で1曲歌を歌い1本締めで解散となるが、ある年、お年寄りの代表の方から「世界中に良い入れ歯を待っている年寄りがたくさんいますから、頑張ってください」と生徒に熱いメッセージをいただいたことがあった。それを聞いて涙をぬぐう生徒もいた。

そして、バスに乗り込んだお年寄りたちに手を振って見送る。お年寄りと生徒の心が通い合った温かさを感じる瞬間である。

4 これまでの感想文

生徒たちは、非常に素直な気持ちを書いてくれる。以下、列举する。「どきどきしたが、頑張った甲斐があった」「真面目に聞いてくれた」「患者さんが固いものを食べられるような義歯を作るために勉強を頑張りたい」「入れ歯を使っている人の生の声を聞けてモチベーションが上がった。また頑張ろうと思えた」「たくさんの人が義歯を大事にしていたり、感謝し

てくれていてとても嬉しく思った。将来たくさんの人が笑顔になれる義歯を作れる技工士になりたいと改めて思った」「感謝されるような技工士になりたいと思った。あきらめないでもっと腕を磨こうと思った」「直してあげたくなった。また、みんなの笑顔が見たいなと思った。私は笑顔を見ることが好きだと気付いた」「困らない部分床義歯を作ってあげたいと思った」「興味津々な顔でお話を聞いてくれたので驚いた」「補綴物を必要としている人のためにも頑張らなければと思った」「適合の良い入れ歯は人を笑顔にする、幸せにするという当たり前のことだけれどとても大切なことだと教わった」「病気で2年以上も歯科医院に通えなくて義歯を変えられないおばあちゃんにを作ってあげたいと思った。僕ももっと頑張らないといけないと思った。来年もまた訪問したいと思った」「お年寄りの方からの入れ歯の話をもっと聞きたいなあとと思った」「今回の訪問はとても楽しかった。知らない人と話すのが苦手なので気が向かなかったが、皆さんが優しく元気なのでいつのまにか私まで笑顔になっていた」「お年寄りがあそこまで元気で活力があるとは思わなかった。」

この感想を書いた生徒達は、社会に出て1～6年目を迎えているが、その約7割が歯科技工の仕事が続けている。

5 今年度の取り組み

今年度は、生徒の人数が少ないため、その分歯科技工物の紹介時にインパクトの強いものを準備しようと思い、実際の作業工程がわかるような実物を持参することを提案した。実習時間を削って発表の準備・練習をし、前日の放課後も繰り返し発表練習を行った。その結果、準備に消極的であった生徒も感想に、「1年生の時に作った義歯に興味津々と見てくれて嬉しかった」「たくさんの人とお話ししてコミュニケーション力を身に付けていきたい」「義歯の不便な所を改善できるように技術を磨きたい」と書いていた。彼らの心に響くものがあったようである。

一方、デイサービスセンターのスタッフの方も、お年寄りの方も、まるで生徒にエールを送るかのよ

うに、いつにも増して生徒の話によく反応して下さったり、入れ歯を外して見せようとして下さったりという様子であった。

その後の入れ歯実習において、「このように直すと良いよ」とアドバイスをすると、生徒の返事が以前に比べて真剣であった。わずかではあるが、製作物に対する意識の違いを感じることができた。

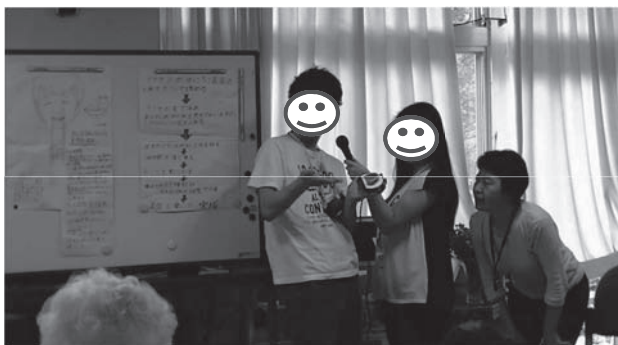


図2 入れ歯の製作手順を説明する生徒

6 まとめ

この取り組みを続けてきて思う事は、生徒にとって人から興味をもって話を聞いてもらえる事や温かく見守ってもらえる事がどんなに大切かということ、また目の前のお年寄りから入れ歯の悩みを聞くという体験が生徒の心を動かす原動力と十分なりうることである。真剣に話を聞いてくれるお年寄りの姿を見て、この人たちのために一生懸命勉強して良い歯科技工士になろうという気持ちが湧き起こる瞬間が少しでもあるならば、この取り組みを続ける意義はあると考えている。今年度もまた、生徒から前向きな言葉を引き出したことは、私にとってもかけがえのない経験となった。

【付記】

本研究は、平成28年（2016年）10月13～14日に開催された第50回全日本豊教育研究大会（附属大会）第12分科会「キャリア教育、卒業後の支援」で「職業意識の育成・向上を目指した取り組み～デイサービスセンターにおけるお年寄りとの交流を通して～」という演題で口頭発表を行った内容に加筆・修正したものである。